

## 平成 27 年度 第 2 回長野市環境審議会 議事録

- ・ 日 時：平成 28 年 2 月 17 日（水）午前 9 時から午前 11 時 00 分まで
- ・ 場 所：長野市役所第一庁舎 7 階 第二委員会室
- ・ 出席者
  - 委 員：大澤委員、北澤委員、久保田委員、小木曾委員、金井委員  
宮島委員、吉村委員、井出委員、伊藤委員、駒村委員、清水委員
  - 事務局：井上環境部長、小林環境政策課長、宮尾課長補佐、山岸課長補佐、  
峯村地球温暖化対策室長、瀧澤生活環境課長、塚田廃棄物対策課長、滝沢清掃センター所長  
（馬場部主幹代理出席）、西澤衛生センター所長（西山指導員代理出席）、鈴木係長、辻主査、  
酒井主事
- 報 道：0 名

### 《 資料 》

- 資料 1 環境施策について
- 資料 2 第二次長野市環境基本計画後期計画の全体構成について
- 資料 3 平成 27 年度前期 NEMS 報告
- 資料 4 第二次長野市環境基本計画の重点プロジェクトの進捗状況について
- 資料 5 第五次長野市総合基本計画策定の進捗状況について
- 資料 6 アンケートの結果報告について
- 資料 7 第二次長野市環境基本計画の課題と見直しの方向性について
- 資料 8 第二次長野市環境基本計画後期計画策定の施策の体系について

### 第二次長野市環境基本計画（本編・概要版）

#### 1 開 会

#### 2 あいさつ 会長

#### 3 会議事項

##### ○ 報告事項

##### （1）環境施策について

資料 1 について説明（事務局）

（A 委員）

剪定枝葉等バイオエタノール化実現可能性調査事業について、進捗状況を教えてください。

（峯村室長）

想定されるコスト等を含み、事業費が事業化に見合うか検討を進めていく段階です。

（井上部長）

剪定枝葉につきましては、当初から安定的に回収されており、堆肥化以外に別の用途を模索し、検討している段階です。

(B委員)

バイオマス産業都市について、政策の内容とメリットについて教えていただきたい。

(峯村室長)

「木質のバイオマスの活用」「きのこの生産過程で大量に発生する廃培地の活用」「生ゴミのエネルギー利用とそこで発生する熱による農産物の栽培」「通常のゴミと選別した生ゴミと下水汚泥とを含め堆肥化し、その際の熱利用と合せて農作物の栽培に役立てる」というプロジェクトがあり平成28年度申請を目指して構想を策定しているところです。

(井上部長)

認定を受けることによって、国の補助金を優先的に受けられたり、積極的な助言等が期待出来ます。

長野市は、森林が非常に多い一方で里山が荒れており、間伐も進んでいない状況ですが、認定を受けることで、里山の保全や新たな雇用創出・産業育成につながるなど、非常に大きな波及効果を期待しています。

環境部の事業としてだけではなく、長野市全体で構想策定に向けて皆様のお知恵を借りながら進めている状況です。

## (2) 第二次長野市環境基本計画後期計画の全体構成について

資料2について説明(事務局)

< 意見、質問なし >

## (3) 第二次長野市環境基本計画のフォローアップ

### ①平成27年度前期 NEMS 報告

#### ・平成27年度前期 取り組みの結果について

資料3について説明(事務局)

(C委員)

このタイミングで前期の報告を受けても、長野市としても後半に向けた改善策を練ることは難しいと思います。

対策の方法を考えながら次の計画を立てないと、同じ結果を繰り返すだけになってしまいます。

このことは、次期計画の策定において踏まえるべき点だと思います。

(井上部長)

ここにある報告数値等は9月までの結果であり、各所属でも状況を承知していますので、報告後も継続的に目標達成に向けた努力をしています。

最終的な結果報告も改めていたしますが、目標未達成の結果が出てくる可能性もあります。

その場合は理由・講じた対策・問題点等を明確にし、課題を明確にして次の計画を立てるべきで、後期計画においてもこれらを踏まえて策定を進めます。

### ②第二次長野市環境基本計画の重点プロジェクトの進捗状況について

資料4について説明(事務局)

(F委員)

ごみ集積施設の見直しやごみを出す側に立った工夫があると、ごみ出しルールの徹底に効果があ

と思います。

(井上部長)

気持ち良く使っていただけるような、意識啓発につながるものがあれば望ましいと思います。  
継続的に模索して参ります。

(A委員)

プロジェクト5の「未利用の木質バイオマス資源の供給体制の整備及び需要拡大の推進」について、剪定枝葉以外に、間伐材や間伐する際の枝等もあると思いますが、これらも見込んでいるのでしょうか。また、将来的展望についてお聞きしたいのですが。

(井上部長)

現時点では、剪定枝葉を中心にしたバイオエタノール化を考えています。

ただし、一つに固定してしまうのではなく、地元の実情に応じた活用方法があるはずですので、様々なパターンで推進することによって、地域の特性に合った活用方法が見出せると思っています。

(A委員)

バイオマスタウン構想の中でも、非常に高い応用可能性があると思いますので、将来の地球環境を見据えて、剪定枝葉だけではなく、セルロースのバイオエタノール化の推進を、是非お願いいたします。

(井上部長)

わかりました。ありがとうございます。

#### (4) 第五次長野市総合計画策定の進捗状況について

資料5について説明(事務局)

(G委員)

低炭素社会について、化石燃料等を使うのではなく、木材等を使っていくことだと解ってはいますが、木材もバイオエタノールも炭素を含みますし、基本的に炭素が無いと物は燃えません。

低炭素以外の表現は出来ないのでしょうか。

(E委員)

空气中に浮遊する温室効果ガスの原因となる炭素を皆で削減し無くして、地球温暖化防止に貢献していこうという掛け声の元に低炭素という言葉が出て来ています。

環境省でも低炭素杯というイベントを開催し、毎年それに見合う行動のあった人を表彰していますし、地球規模で、低炭素は地球温暖化防止の標語としての位置付けになりつつあります。

また、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)では、世界中で発表された9,200以上の科学論文を参照し、800名を超える執筆者により、第5次評価報告書が作成されました。ただし、それは一般的には難解なため、IPCCレポートコミュニケーターという、報告書の内容を噛み砕いて説明出来る人材を日本中で養成するというプロジェクトが動いているところでして、低炭素という言葉はこれからはもう少し解り易くなると思いますので、私は是非低炭素という言葉を使ってもらいたいと思っています。

(B委員)

土地利用構想につきまして、とても重要なことだと思います。

昔は三ちゃん農業と言われていた農業が、今は高齢化によって一ちゃんにも満たない状況で、後継者が大事だと思うところです。

「農業の土地利用の需要の減少から、土地全体の需要が減少し、土地の適切な管理と有効利用を図ります」とありますが、長野市が耕作放棄地を生産組合に優先的に貸す等といった施策を拡大するという方針という解釈でよろしいでしょうか。

(井上部長)

明確にそのとおりです。

やはり集約化しないと成り立ちません。耕作地と耕作放棄地の実態は虫食い状態になって来ていますから、B委員のお話のとおり農業政策の一つの柱として、耕作放棄地の集約化をして、農協や生産法人が行うにしても、そのような方向に進めたいという意向を持っています。

(B委員)

それは、圃場整備をして大きくするというのではなく、個人の小さな田が多くありますが、それを市がまとめて仲介するということがよろしいですか。

(井上部長)

詳細につきましては、農林部での話になりますが、その課題につきましては総合計画の中にも中山間地域の中にも入っています。

(A委員)

低炭素社会について、進めるべき政策1番の「かけがえのない自然を未来へつなぐまちづくり」の中に、「豊かな自然環境を保全します」という施策があり、2番の「環境に配慮した心地よい暮らしづくり」の中に「良好な生活環境を保全します」という施策があります。よく言われる自然環境と生活環境を並べ、その下に低炭素社会と循環型社会が位置付けていますが、環境について考える場合には、低炭素も循環型も総括的な政策だと考えています。ですから、あえて自然環境と生活環境の両方に振り分けることに無理があると思いますので、環境全体の考え方を述べる部分があれば、低炭素社会と循環型社会を分けない方向に校正または修正ができれば、その方が解り易いと考えます。

(井上部長)

両方があって一体を成すものがあると思いますので、ご意見として預かり、総合計画の方で検討していただきたいと考えます。

(C委員)

総合計画審議会と環境部会と両方で委員を勤めさせていただいてまして、難しい審議内容が多く、頭を悩ませていますが、進めるべき施策の上に目指す方向があり、この部分で長野市の方向性を入れていますが、おっしゃられたように、低炭素の社会を実現しますということも循環型社会を目指しますということも、目指す方向の中では謳っているつもりです。ですので、低炭素社会と循環型社会を実現するために、この4つの施策を打ち、それから具体的に何をやっていくのかということが、我々にとって一番重要なことだと考えていまして、項目を挙げるだけではなくその実現に向けてどう図っていくのか、実現の方法、進捗の方法という部分まで落とし込んで、一人でも多くの方に納得していただけるような方向で考えさせていただいているところです。

(A委員)

総合計画において循環型と低炭素を別々の施策に分けてしまうようですので、意見として言わせていただきました。

(会長)

現時点で施策の細かなところにこだわると、そこだけに注目してしまい全体的な流れを見失ってしまいますので、流れから外れないようにお願いします。

#### (5) アンケートの結果報告について

資料6について説明（事務局）

(会長)

2枚目の一番上のグラフについて、平成27年度の環境に対する満足度の調査結果が全体的に下がっている理由について、説明をお願いします。

(鈴木係長)

東日本大震災やPM2.5の問題などをきっかけにして、市民の環境に対する意識が高くなったと言えると思います。

折れ線グラフの満足度については、1ページ下段の横棒グラフの満足とほぼ満足の合計になっています。

横棒グラフに、ほぼ満足とやや満足とがあり、満足と答えた人の割合は今回もあまり変動がなく、ほぼ満足とやや満足の割合に変化が見られ、今までほぼ満足と答えていた人が、今回はやや満足と答えたことで、満足度としては下がったという結果になったとも考えられます。

(井上部長)

前回表示している平成22年の結果は平成21年10月のごみの有料化の直後に当たり、環境全般に対する関心を非常に高めていただいた時期だと考えられます。これが継続することが一番必要なんですが、残念ながら当時よりも意識が希薄になって来ている可能性はあると受け止めています。

(会長)

環境は悪化していない、という客観的な指数的なものがあれば良いと思います。

(A委員)

2つの要因が想定されると思いますが、同じ人が時間の経過で満足度が下がったというのが一つと、もう一つは例えば新幹線が開通したことで、金沢との比較の機会が生じ、その際金沢の方が良く思ってしまったことが長野の満足度に影響したと言うこと、可能性であれば2つの大きな考え方はあると思います。

### ○ 協議事項

#### (6) 第二次長野市環境基本計画の課題と見直しの方向性について

#### (7) 第二次長野市環境基本計画後期計画の施策の体系について

資料7・資料8について説明（事務局）

(F委員)

より市民に解り易くするという部分について、一般的に3R（スリーアール）、リデュース・リユース・リサイクルという用語を国でも盛んに使っていますが、ここであえて減量化と再資源化という漢字の表現にしたと言う点と、廃棄物処理法では一般廃棄物と産業廃棄物とは、明確に区分されていますので、ここであえてひらがなのごみという表現をするというのはふさわしくないとと思われる点、この2点についてどうお考えでしょうか。

(鈴木係長)

一般廃棄物や産業廃棄物が、廃棄物の処理及び清掃に関する法律で定義されていることは存じていますが、現行計画の廃棄物の発生抑制という施策テーマの全ての施策につきまして、ごみという言葉が使われています。一般的に市民の方により解り易くということになりますと、法律で定義付けられている用語よりは、ごみという表現にした方がより市民の方に身近に捉えていただけるのではないかと、との考えからの提案でございます。

(F委員)

では、資源廃棄物と言われるペットボトルやアルミ缶等も、全てごみという表現になるということですか。

(鈴木係長)

資源になる部分は再資源化をしていきたいと考えますし、ごみの減量と再資源化という形で一つに捉えて、現在では2つの施策に分かれている部分を一つの観点で捉えたいという考え、最終的に燃やしてしまうごみの減量化と、資源ごみとして再資源化して使用するというを一体に考えるという意味で、ごみの減量と再資源化という一つの施策テーマにした、という考えです。

(F委員)

ただ、ごみも処理の方法が確立すれば有価物になる可能性がありますから、ごみという言葉で一つに括るとするのは、私は如何かという気がします。

(井上部長)

現計画において発生抑制というリデュースと再資源化のリサイクルはあり、再使用のリユースがありません。市とすれば、減量という気持ちの中には当然排出抑制があり、ごみにしない使い方という観点からリユースもこの中に込めてはいます。最終的にごみとなってしまった物については、資源化やリサイクルをするという考え方です。

(F委員)

非常に立派な本が平気で紙のごみで出されます。それらを全部ごみとして焼却処分して良いのでしょうか。

(井上部長)

今のご意見につきまして、結果は別として持ち帰り検討をさせていただきます。

環境基本計画の施策テーマを、2つのままよりも1つにまとめて漏れも無く進めるということで、考え方としては一つにまとめていくという方向でよろしいでしょうか。

(F委員)

はい。

(D委員)

資料8の右下、施策テーマ2)の「環境教育及び環境学習の推進」について、育成会や小学校等で子ども達に環境の話をさせていただいています。その際に学校はどのようなことを考え目的として環境教育をしているのか、私はそのようなことにこだわらず勝手に話をしているのか、教えていただきたい。学校等から依頼があれば、是非と行かせていただいています、私が勝手に環境問題について話をしてもいいのか、学校の基本的な考えがあるのか、それをお聞きしたい。

(井上部長)

学校でお話をされる場合、事前の打合せ等はないのでしょうか。

(D委員)

私の思い考えることと、学校とで意見が食い違う場合もあります。 その場合、子ども達に何をどのように話せば良いのか、教えたら良いのか、解らなくなります。 内容について一切の縛りが無いとしても、やはり何を話しても良いと言う訳にはいかないと思います。

(井上部長)

課題等があるとすれば、教育委員会と情報を共有し、学校によって異なる考え方を持っていることについて、教育委員会として把握しているのか、把握している場合はどのように進めるつもりなのかといった情報の入手も必要になってくると思われれます。

(D委員)

小学校から3年生を対象にソーラークッカーの講習依頼を受けました。 3年生になると環境問題の話が出て来るそうです。 その学校で私は毎年講演を行っていますが、3年生ですから先生も子ども達も毎年変わります。 ただし、先生方が違っても基本的な考え方や問題に関しては同じ意見です。 ですから私もやりやすいし、基本的なことを共有出来ているので、先生方も乗ってくれるし、もちろん子ども達も非常にやる気になってくれますので、やりがいがあります。

(E委員)

環境学習を環境省と文部科学省が本気になって始めたのは、3年程前からです。

ESD<sup>1</sup>という言葉がありますが、ESD 環境教育プログラムというものを全国的に実証授業として行っています。 長野でも3校が経験をして3年が経過していますが、社会に出て実際にやっている人の経験に基づくものでないと、本当の環境教育は出来ないと思っています。

そういったことを踏まえて、長野でもやろうという話をしまして、NPO 法人みどりの市民と協力をして、3月6日に環境教育の展開の仕方について、関心のある方に来ていただいて意見交換会を設けることからスタートをしよう、というということで長野市の教育委員会や環境政策課にも協力を得て、今動いています。

(A委員)

資料8の中で、先程のアンケートの結果と第五次総合計画の案とがあり、環境基本計画の後期計画の案がありますが、総合計画において気になった部分が、進めるべき政策の2の「環境に配慮した心地よい暮らしづくり」の中で、「良好な生活環境を保全」とあります。 通常、生活環境には創出という言葉が付きますが、生活環境に対して強引に色々な意味合いを含めさせ、最終的に2項目に絞り込んでいるとも思え、一方、環境基本計画の基本目標の④の「豊かで快適な環境の創造」では、公園緑地等のことも謳っていますので、ここは是非保全・創出にしていきたい。

そうすればこの生活環境自体も豊かで快適な環境の創出という意味合いを帯びてきますので、やはり是非保全・創出にしていきたい。 理由は、昔市街地でホテルを見かけたことがあり、市街地のホテル生息地をくまなく見て回ったところ、網の目状にある水路のいたるところに小さな個体群が数多く存在していました。 県庁所在地でこのようにホテルが見られてすばらしい街を私は知りませんし、何より非常に高いポテンシャルを感じ取れますので、是非とも水辺に対する非常に高いポテンシャルを生かした環境政策をお願いしたいということです。

(井上部長)

次回までに検討させていただきます。

---

<sup>1</sup> ESD: Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」

緑については保全と創出と言っておきながら、水辺については維持管理的なイメージを受けるので、水辺についても創出という意味合いが欲しいと言うイメージでよろしいですか。

(A委員)

はい。

(B委員)

農地の保全の関係で、私も農業をやっているとして除草剤をかなり撒きますが、資料の7の中で「性フェロモン剤や生分解性マルチの購入に対して補助金を交付しています」「これを利用した減農薬農産物のブランド化の取り組み強化が必要」と書かれていますが、具体的に性フェロモン剤や生分解性マルチとはどのようなものかということと、補助金について教えてください。

(井上部長)

申し訳ございません。

本日農林部が同席しておりませんので、詳細につきましては確認をさせていただき、次回ご説明申し上げます。

#### 4 その他

< 意見なし >

#### 5 御 礼

平成28年3月末日をもって、長野市環境審議会委員任期が満了することに伴い、井上環境部長より御礼。

継続いただける委員に対しては、次回審議会が6月に開催予定であることを事務連絡。

#### 6 閉 会